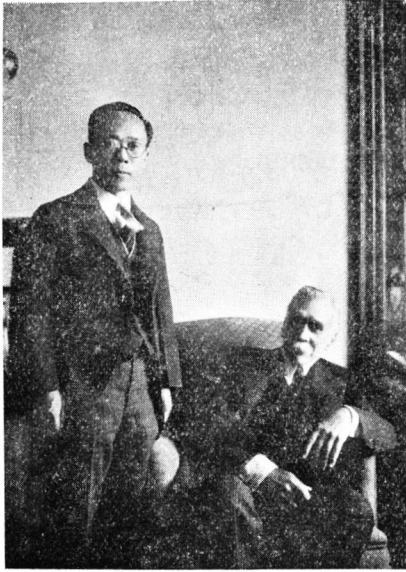


## 米 洲 行 日 誌 (6)

山 本 一 清



ヨナ老博士と筆者(5月13日)

## 5月18日(火曜日)

公私の來客が多く、今までの室が狭いので、今朝から黒飛中日會長の斡旋により第209號室に移る。

10時、デアンデラス中佐とエリクソン博士來訪、數日來トルヒヨ市附近の地勢を視察した結果の報告の件につき、清廣氏をも加へて、詳細に打ち合はせをし、ガルシヤ委員長の都合を聞いて、明19日午前9時に大學で委員會開催と決定した。

吾等の同僚柴田堀井兩君と、觀測器械とを載せたノルエ1丸が本日ガヤキル港を出帆したとの電信が來たので、公使館の特別な御盡力で、外務省、税關、ダンカン・フオクス會社等に交渉を重ね、何とかして此の船をサラベリ港に寄らせることとなつた。非常に好都合で、萬事大助かりである。直ちに船中の柴田君に打電し、サラベリに上陸を訓令した。

豫定の如く、朝9時に大學で日食委員會が開かれ、ガルシヤ博士座長となり、尙ほ米國隊からはコルフ氏の外に、アダムソン氏等も出席、ベル1側も、ロタルデ大佐(前の海軍大臣)等全部列席した。會は吾々のトルヒヨ附近派遣の調査委員の報告を主としたもので、自分は主任者として、約1時半にわたり、詳細な報告をし、結論として、ワンチャコ村のラルコ館を最も適當した觀測點として推薦し、我が日本觀測隊は此のワンチャコに器械を据え付ける豫定なる旨を附加した(早坂氏通譯)。質問も殆んど無く、一同之れを聴取承認の上、暫く意

## 5月19日(水曜日)

豫定の如く、朝9時に大學で日食委員會が開かれ、ガルシヤ博士座長となり、尙ほ米國隊からはコルフ氏の外に、アダムソン氏等も出席、ベル1側も、ロタルデ大佐(前の海軍大臣)等全部列席した。會は吾々のトルヒヨ附近派遣の調査委員の報告を主としたもので、自分は主任者として、約1時半にわたり、詳細な報告をし、結論として、ワンチャコ村のラルコ館を最も適當した觀測點として推薦し、我が日本觀測隊は此のワンチャコに器械を据え付ける豫定なる旨を附加した(早坂氏通譯)。質問も殆んど無く、一同之れを聴取承認の上、暫く意

見の交換が行はれた後、ガルシヤ博士は言葉を改めて、こゝに教授級4名、學生3名より成るペルー國の日食觀測隊の新組織を發表し、此の觀測隊は、日本の觀測隊と共に、北秘ワンチャコに派遣する案を提議、大多數の賛成を獲て、其の通り決定した。

サンマルコス大學は自分の待遇問題について何かを考へてゐるらしく、本日ガルシヤ博士から自分に簡単な履歷書を欲しいと言つてよこしたので、正午、榊氏方で之れを認めて、午後之れを届けた。

17時、藤村代理公使同道、外務大臣に謁見した。

18時、ガルシヤ、ロセンブラト、モスタホ3教授ホテルへ來訪。近々ガルシヤ博士が日食に關する講演や放送をするので、純天文學的な立場からの資料が欲しいとの願ひであつたので、2時間にわたり説明した所、大満足であつた。

20時、中日會主催で自分のために晚餐會がキラク亭で開かれた。

#### 5月20日(木曜日)

ノルエ1丸が愈々本日午後サラベリに入港することとなつたので、清廣氏は



20日トルヒヨへ(通譯兼秘書橋本實君と筆者)

既に昨朝の飛行機でトルヒヨへ出發したが、自分も今日8時45分發のフォセト機で橋本君と共にリマを立つこととなつた。急に豫定變更なので、大學での講演等は皆、やむを得ず、日食の後に延ばすこととした。

今日の飛行機には、チンボテ迄、當“ペルー國のリンドバグ”と呼ばれる有名な飛行士(昨年、リマから、アルヘンチナのブエノスアイレスまで直飛のレコードを作つた人)と乗り合はせたが、チンボテからは吾々2人だけとなつたので、自分は助



20日リマ飛行場にて  
見送りの藤村代理公使と筆者  
本人会員数人つき添ひの上、トルヒヨに運ばれ、今夜は驛の構内に保管されることとなつた。吾々は又ラルコ邸に歸り、一同安着の喜びに溢れて、晚餐の席についた。

手席に乗り移り、機上の絶景を賞した。

11時トルヒヨ着。次いで、13時着の第2便で、勸業省から特派のカベヨ氏も來着したので、一同ラルコ名譽領事館邸に落ち付いた後、16時、いよいよ入港するノルエ1丸を迎えるため、サラベリ港へ行つた。恰も、船は港内に投錨したので、一同ランチに乗つて出かけて行き、柴田堀井兩君の元氣な顔を見た。横濱で別れて以來50日ぶりである。——器械類は直ちに別のランチに積み換へられたので、吾々は兩君と共に、船長や其の他の船員たちに別れを告げ、ランチで上陸した。

器械類は一旦貨物列車に積み込まれ、日

今後、吾々3人と清廣氏とは日食の終りまで長くラルコ邸の客となる。

#### 5月21日(金曜日)

早朝、ラルコ氏の盡力により、驛の倉庫にあつた吾々の器械類12箱は全部ラルコ邸の倉庫内へ安全に運び込まれた。

9時45分、吾々はラルコ氏及び多くの日本人会員たちと共に、車を連ねてワシヤコ濱に行き、ラルコ館の内部に入つて、諸器械の据え付けの設計をした。豫備的計算によれば、日食の太陽が殆んど此の家の正面に當ること、太陽の高度が10度弱で、窓内から容易に観測が出来るから、只、二三ヶ所の床板を外して、煉瓦臺を作る以外に、何の工作も加へる必要が無いこと、従つてバラク等を新築する必要の無いこと、トルヒヨから僅か14軒で、毎日毎夜の交通に極めて便利であることなど、このワシヤコが観測點として良いことは皆々今更ひとしく認める所となつた。天氣も連日非常に良い。